令和元年度　　**我孫子中学校学校評価報告**

1　ねらい

・教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき教育活動・学校運営の改善を図る。

2　アンケート実施期間　　令和元年１２月、令和２年１月

3　対象者　生徒８８３名、全保護者８８３名（生徒数）、全教員　５４名

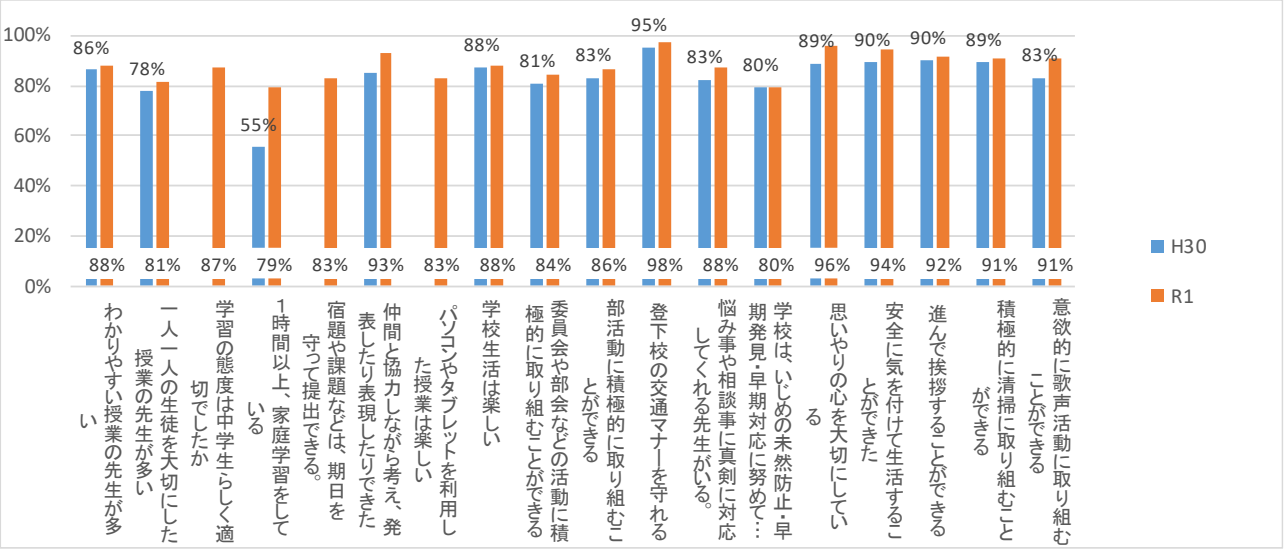
4　アンケート結果と考察

「そう思う、大体そう思う」と答えた生徒・保護者についての割合でグラフを作成。

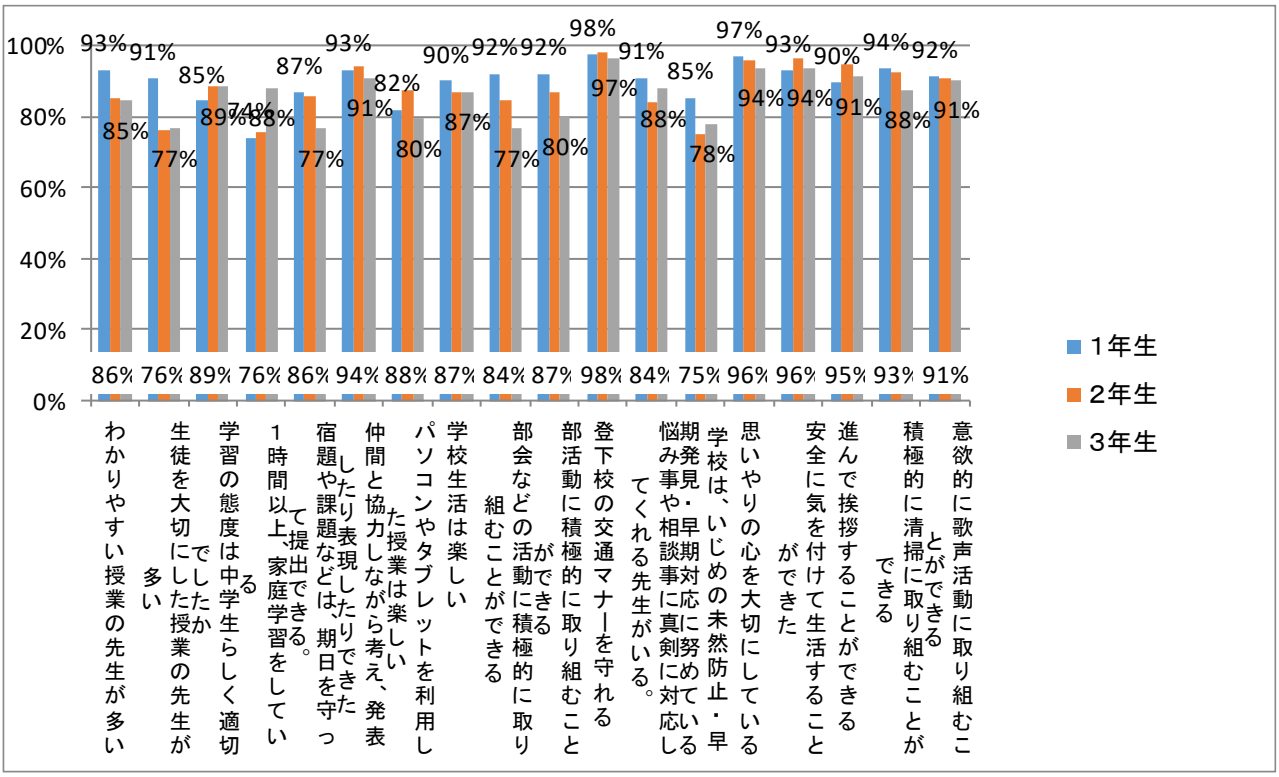
＜　生　徒　＞

（1）生徒の学習・学校生活などについて

【昨年度との比較】



【学年別】



＊＊学習について＊＊

・「わかりやすい授業の先生が多い」「一人一人の生徒を大切にした授業」「学習態度は中学生らしく適切」と答えた生徒がともに８割を越えている。
・他の生徒と協力できたと考えている生徒が９割を超えている。
・「１時間以上家庭学習をしている」が大幅に昨年より増加した。しかし、1，２年生で８割を割っているので家庭学習を習慣化させたい。
・課題などの提出は、８割以上の生徒が期限を守ると答えている。しかし、学年が上がるにしたがって、期限を守る生徒が減る傾向にある。
・「課題に対して、仲間と協力しながら自ら考え、発表したり表現したりすることができた」では、３学年とも９割を越えている。

＊＊学校生活について＊＊

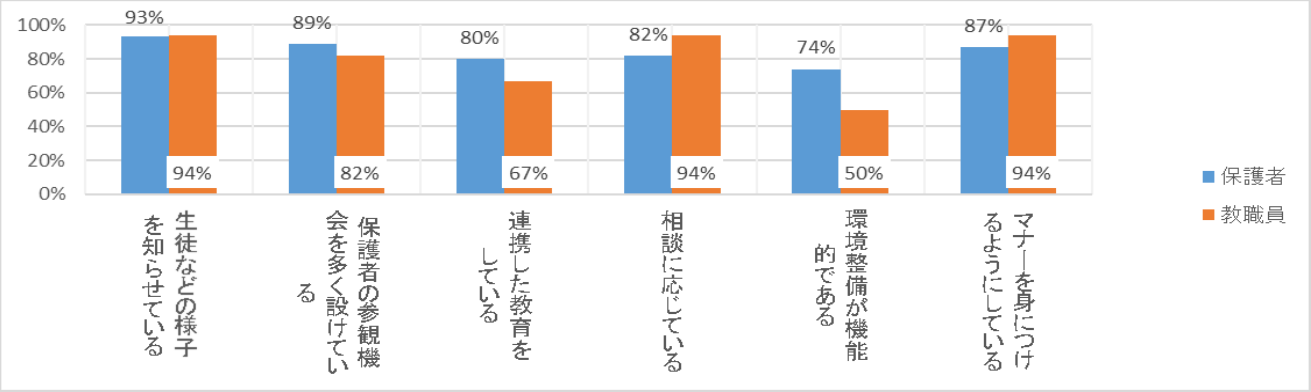
・ 学校生活への意欲、委員会や部会活動、部活動ともに意欲が昨年より向上している。特に１年生が高い。しかし、学年が上がるにしたがって意欲が下がる傾向がある。
・「登下校のマナー」は３つの学年とも意識が高い。
・「思いやりの心を大切にしている」と回答した生徒の割合が、高い水準を維持しており、相手の気持ちや立場になって考えようとする生徒が増えている。

＊＊教師・学校の取組＊＊

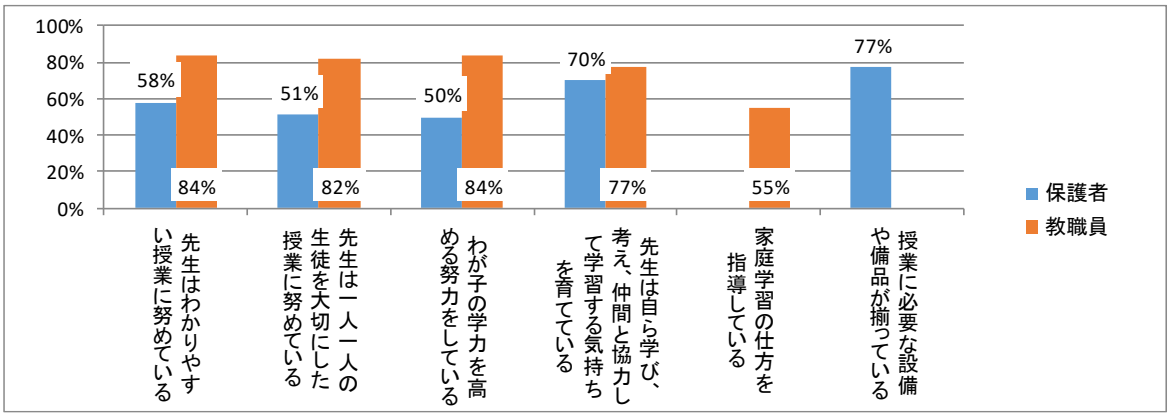
・「悩み事や相談事に真剣に対応してくれる先生がいる。」は昨年よりも向上している。しかし、多感な２年生に於いて下がってしまっていることが課題である。
・「いじめのない学校づくり」への取組は、２割の生徒が足りないと考えている。特に２年生は４分の１の生徒が足りないと考えている。いじめのない学校の実現に向けて、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で取組を強化していく。

＜　保　護　者　＞　　～　教師と保護者と教師（と生徒）の回答を比較　～

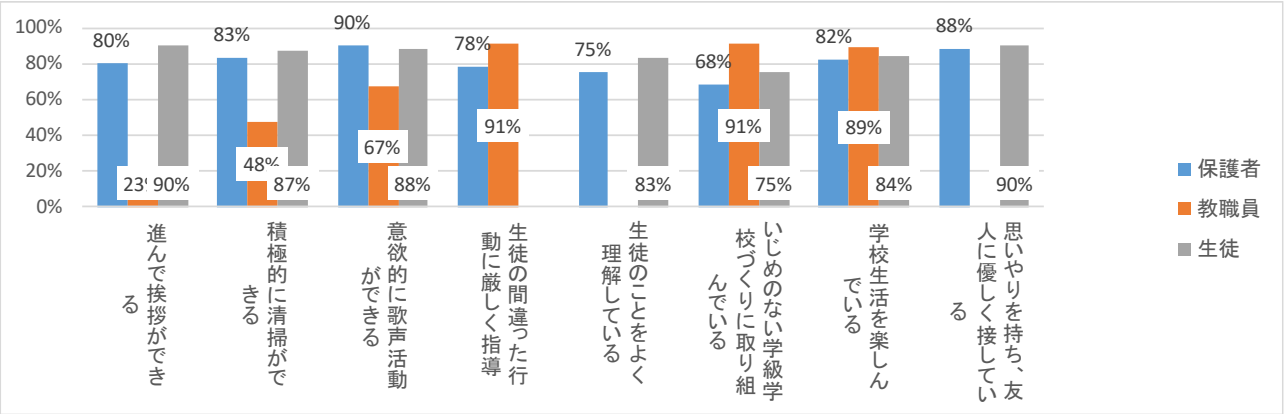
（1）学校運営について



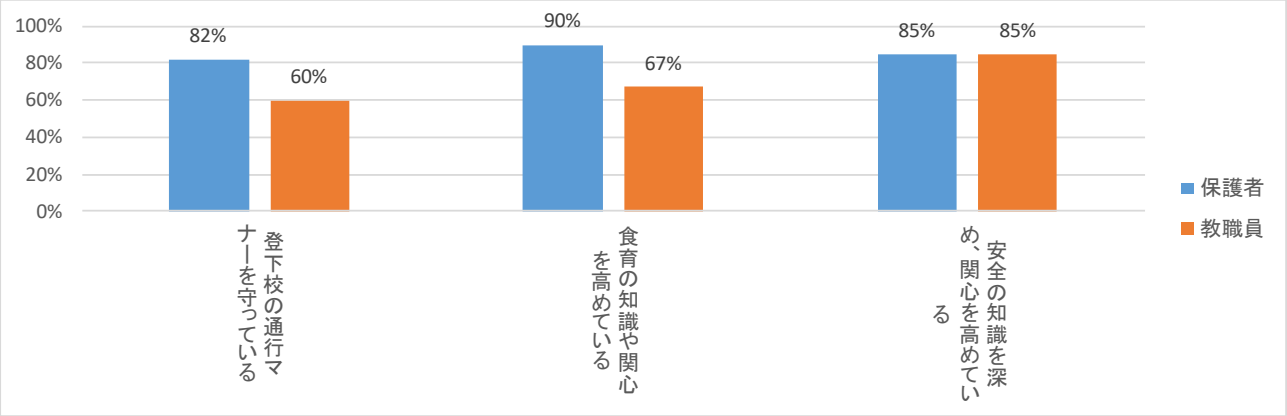
（2）学習指導



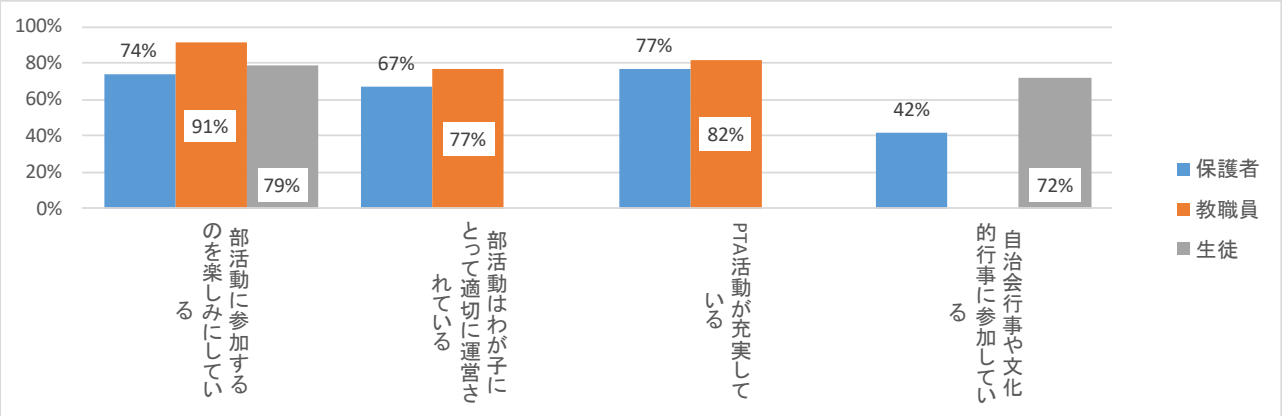
（3）生徒指導について



（4）　健康・安全面について



（5）　部活動・ＰＴＡ活動について



・**学校運営**　では、学年・学校だよりを通しての広報については評価が高かったものの、特に「教育相談」については、教師の意識との差が表れている。一人一人により丁寧な対応を心がけ、教育相談の充実を図っていきたい。また、環境整備について、教師の半数が不十分と感じている。学校設備の老朽化に伴い、修繕が必要なところが増えてきている。安全を第一に、迅速な修繕を行えるよう効果的な予算執行をしていく。社会ルールやマナーの指導については、保護者や地域の方々にも協力を仰ぎながら、意識の高揚を進めていきたい。

・**学習指導**　では、肯定的な評価をした保護者の回答が5割から6割と、大きく落ち込んでいる。教師・生徒の肯定的な評価は8割で、それとも大きく離れている。差ができた要因としては、新学習指導要領で求められている学力の概念について、保護者に理解をされていないことが考えられる。言語活動や「主体的・対話的で深い学び」の重要性を保護者の方に理解いただけるように、保護者会や広報でお知らせしたり、授業を見る機会を増やしたりしていきたい。

・**生徒指導面**については、「挨拶」「清掃」「歌声」について、保護者・生徒と教師の間で、評価に差が出ている。本年度は「我孫子プライド」をスローガンに、生徒の自律意識を高め、挨拶運動などに取り組んできた。実際に目に見えて生徒の挨拶に改善した時期があった。教師は課題を感じて取組を強化したため評価が低く、生徒は大きな前進が見られたので評価が良くなり、差につながってしまったと思われる。大きな変化が起きたことは間違いないので、来年度も生徒の前向きな気持ちに訴えかけた取組をしていきたい。また、いじめのない学校・学級づくりでは、教師の肯定的な評価が90％を越えている対し、保護者の3分の 1、生徒の4分の1は否定的な評価をしている。いじめ事案は、当事者双方の納得を得ることが難しいことが要因の一つと考えられる。また、いじめ防止を未然に防ぐ指導を強化し、いじめの発生数を減らしていくことが必要である。SNS の扱いについての指導など、いじめ未然防止につながる取組を強化したい。

・**健康・生活面**では、登下校のマナーについて、保護者・生徒は8割以上の肯定的回答が得られているが、教師からの評価との間には差がある。登下校のマナーについては一部の生徒だけがマナーが悪くても、それが大きな課題となる。教師の方が問題意識を感じる傾向はある。保護者、地域の協力を得ながら引き続きマナー指導に取り組んでいきたい。食育の知識については、栄養教諭から定期的に出ている資料を努力して作ったことが成果につながり、保護者の高評価につながった。職員にも内容の周知を図っていきたい。

・**部活動指導**については、「部活動を楽しみにしている」という評価が保護者・生徒は昨年並みだが、生徒の評価が下がっている。少ない時間でより充実した活動ができるように、保護者の理解と協力をいただきながら、運営方法、指導方法等について考えていきたい。

・**「生徒の地域の行事への参加」**がまだ72％まで伸びた。地域の行事を大切にする意識は少しずつ高まっていると考える。

＜全体を通して＞

① 学習指導

・重点項目のひとつである『学力向上』については、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の展開により、子供たちが「わかった」「学ぶのが楽しい」「もっと学びたい」と感じる授業づくりに取り組んできた。見えてきた点は、生徒は「アクティブラーニング」について理解が深まっていること、学習意欲は学年が上がるに従って高くなっていること、教師への要求・期待が学年が上がるに従って大きくなっていることである。グループ学習の定着は、本校が継続してアクティブラーニングに取り組んできた成果もあるが、小中一貫教育の取組で、小学校も中学校と同様の形態で学習を進めてきたことが功を奏していると考えられる。授業づくりについて、生徒と教師の評価はほぼ一致しているので、保護者の理解が得られるよう工夫していきたい。

・本年度は表現・発表などのツールとして、タブレットを利用した授業を行った。まだ台数も少ないので、利用には限りがあるが、アンケートから生徒の関心は高いことがわかる。タブレットの使用した学習は今後普及していくことが考えられる。来年度以降も重点の一つとして取り組んでいきたい。

・補習や学習サポートについてもテスト前や放課後、今年度同様計画し、生徒が参加しやすいように呼びかけや時間の設定等、工夫をしていきたい。

② 生徒指導・安全面

・自転車の乗り方、登下校のマナーなどについての生徒の意識は昨年よりも向上している。しかし、住民の皆さまからお叱りの連絡をいただくことも少なくなく、生徒に全体指導をしなければならないこともあった。各家庭や地域、生徒会活動（安全委員会）と連携して、安全指導に努めていく。

・携帯やメール、SNS 等の使用に関する情報教育は、専門家を招いて指導を行うなど強化を図ったが、生徒間トラブルも発生した。引き続き、それらを効果的に使う方法を指導すると共に、誤用によるトラブルを避けるためにも、保護者・ＰＴＡの協力を仰ぎながら、計画的に行うとともに、家庭でのルールの徹底が大きな力となる。

・挨拶の指導については、「さわやか杯」を設立して生徒の意識高揚を図り、一定の成果を得た。「我孫子プライド」をスローガンに、生徒の意欲高揚を図り、清掃・歌声にも成果が見られた。委員会活動を活性化し生徒会とも連携し、引き続き取り組んでいく。
・いじめについては、人間関係作りやコミュニケーション能力を育てる指導をこれからも取り組んでいく。今年度は、ＳＮＳの利用によるトラブルや心無い落書きなどの陰湿な事例もあった。「いじめは許さない」という姿勢を教師・生徒と共有し取り組んできた。道徳の授業や生徒会活動を通して、継続的に啓発を行いたい。また、スマートホンの管理についても保護者の協力を仰いでいきたい。

③　部活動指導

・働き方改革とも関連して、大会前などを除き、平日と週末各１日の休養日を設けるようにした。大会前で実施できなかった場合は、代替の休日も設けるようにした。同じ部活動の保護者の意見で、「もっと活動日を増やしてほしい」「部活動をやりすぎ」の両方が存在する。ニーズはさまざまであるが、休養日に対する理解を得られるように広報活動をしていきたい。

④　教師の指導

・教師の若年化に伴い、事件・事故への初期対応の大切さ、丁寧な指導の大切さを指導している。言葉遣いや振る舞いなど、社会人として大切なことの指導も継続して行っていきたい。
・報告、連絡、相談の大切さ、組織で動くことの大切さを共有している。

⑤　その他

・本年度はＨＰの更新をこまめに行い情報提供・発信してきた。学校の様子を伝える手段として、来年度も取り組んでいきたい。
・授業や行事の参観を通じて、保護者に学習の様子も理解してもらっていく。

【学校関係者評価】

新型コロナウィルスの対応のため、学校関係者評価委員会を兼ねた学校評議員会議を開催することができませんでした。そこで、学校評議員の方々に学校評価の結果を見ていただき、それをもって学校関係者評価に代えます。

〇学習・学習指導について

・生徒が仲間と協力しながら自ら考え、発表・表現することができたことを高評価していることに、学校が取り組んできた成果が出ている。
・「わかりやすい」「生徒を大切にした授業」に保護者はいずれも50％台であるのは、期待値が高いこともあるが、新学習指導要領の学力の概念が理解されなかったのなら、情報提供していく必要がある。保護者の理解を得てこそ教育活動が円滑に進むと考える。

〇生徒指導・安全面について

・メールやラインを使用した情報発信の場合、自分の発言が相手にどのように理解されるかの想像力を養うことが重要であると考える。常にクラス内の動向に配慮をして、生徒同士の衝突が行き過ぎた形態をとらないように配慮願いたい。
・自転車通学で、危険な場面が減ったように見える。大きな通りでは生徒はルールを守っているようだが、住宅街に入ると今一つに感じる。今後も生徒への指導に努めてほしい。
・いじめに関しては、生徒も保護者も評価としては低い。教師が取り組んでいる姿が見えにくいのかもしれない。教師はもっと「いじめ」に関して許さない姿勢を生徒にも保護者にもアピールしてもよいと思う。
・現在の我孫子中生の落ち着いた生活、意欲的な活動ぶりが評価に表れているように思われる。挨拶、清掃、歌声の評価が、生徒・保護者と教員の間で分かれているのは、「良し」とする基準に隔たりがあるからだろう。

「学校生活が楽しい」と答える生徒が90％近くいるということはとても喜ばしい。そうでない10％の生徒にも心配りを忘れずに指導にあたってほしい。

〇部活動指導について

・保護者の中には、ほぼ毎日部活動をすることが当たり前になっている人がいると思う。保護者の意見・ニーズに応えることも大切だが、限られた時間の中で生徒たちが目的を明確にし、目的を果たすために自分たちで考えて取り組めるように指導して欲しい。

・部活動が授業で培えない人間形成があることは周知のとおり。限られた日課の中での休養日の設定は生徒にも意味ある時間となると思う。保護者へは、広報活動で理解を得られると思う。今後指導体制、効果的な指導計画は課題になると思う。

・部活動では、保護者は生徒の意見に左右されてしまう。生徒は必ず保護者に困りごとを言うと思って部活動指導にあたった方が良いと思う。全員を満足させられることは難しいが、生徒の様子をしっかり把握しながら指導にあたることが大切だと思う。保護者に部活動の様子を理解してもらうためにも、学期に1回くらいは自由参観の日を設けてもいかがかと思う。

・部活動に積極的に参加している生徒が80～90％近くいるということは、おおむね評価できる。「部活動の適切な運営」で保護者67％については少々注意が必要である。顧問がより一層意思疎通を図りながら相互理解を深めることが大切だと思う。

〇教師の指導について

・生徒一人一人がかけがえのない命であると肝に命じて指導にあたることは言うまでもない。不用意な言葉、安易な判断は慎むべきである。組織で学び、助け合う教師集団の中に生徒の確かな人格と学力が培われる。誇りを持って指導にあたって欲しい。

・教師の若年化は心配な面もあるが、保護者の立場から考えると、子供たちに寄り添い力を注いでくれるという期待がある。ベテランのフォローが大切である。働き方に気をつけて頑張ってほしい。

・教師は常にみられていることを意識しながら教育活動をしなければならない時代になった。地域や保護者から信頼されないと、教育活動が滞ってしまう。一人一人の教師が保護者をもっと意識し、自分の教育活動を理解してもらえるよう工夫すべきだと思う。

・教員は、多忙ゆえに生徒が示す様々なサインを見過ごしになりがちではないかと不安になることがある。先輩教員が後輩教員に対して指導助言することは、教員としての力量を上げるためには必須の行為なので、校内における研修体制の構築と合わせて、日常的なOJT体制の構築も必要である。

・「学習指導」と「いじめのない学校・学級」に関して、生徒よりも保護者と教師間で評価が別れているのが気になる。今後検証をしていく必要がある。

学校関係者評価でいただいた評価・提言を厳粛に受け止め、今後の学校経営に生かしてまいります。